

ホットアート2003 市川市文化祭



第304回 市響

# ファミリー交響楽 コンサート



平成15年12月14日（日） 午後2時開演

場所：市川市文化会館 大ホール

指揮：森口 真司

ピアノ：鈴木 珠美

管弦楽：市川交響楽団

市川市  
市川交響楽団協会 千葉交響楽団協会

## 本日のプログラム

フランツ・シューベルト  
『ロザムンデ』序曲 D.644

ルードヴィッヒ・ヴァン・ベートーヴェン  
交響曲第2番 ニ長調 作品36

- 【第一楽章】 Adagio molto - Allegro con brio
- 【第二楽章】 Larghetto
- 【第三楽章】 Scherzo (Allegro) - Trio
- 【第四楽章】 Allegro molto

〜 (休憩) 〜

イゴーリ・ストラヴィンスキー  
バレエ音楽『ペトルーシュカ』(1947)

- 【第1場】 謝肉祭の市場
- 【第2場】 ペトルーシュカの部屋
- 【第3場】 ムーア人の部屋
- 【第4場】 謝肉祭の夕暮れ

## 曲目解説

フランツ・シューベルト  
『ロザムンデ』序曲 D.644

(Franz Peter Schubert) 1797-1828 オーストリア  
(Rosamunde Overture) 1820年作曲

『ロザムンデ』とは、ヒェツィの書いた劇の題名でキプロスの女王の名前です。シューベルトは、この劇の音楽の作曲を依頼されて間奏曲・合唱曲・バレエ音楽等を作曲しました。しかし、上演日までに序曲の作曲は間に合わず別の歌劇のために作った序曲を流用しました。その後、更に別な『魔法の豎琴』という歌劇の序曲にロザムンデ序曲という名を付けて出版した為、現在では、劇とは全く関係ないその曲が『ロザムンデ序曲』となっています。もちろん、本日演奏するのも、この元『魔法の豎琴序曲』です。因みに、劇『ロザムンデ』は現在ほとんど上演されていません。このヒェツィと言う劇作家は、ウェーバー作曲の歌劇『オイリアンテ』の脚本も作っているのですが、こちらも現在では序曲以外は忘れ去られています。結局、あまり良い脚本は書けない人だったようです。

ルードヴィッヒ・ヴァン・ベートーヴェン  
交響曲第2番 ニ長調 作品36

(Ludwig van Beethoven) 1770-1827 ドイツ  
(Symphony No.2) 1801-1802年作曲

市川交響楽団が、ベートーヴェンの交響曲を取り上げて演奏するのは、第9番を除くと1999年、平成11年6月20日に公演した『運命』以来である。交響曲第2番としては、1972年、昭和47年7月2日以来2度目である。

交響曲第1番	ハ長調	作品21		2回
交響曲第2番	二長調	作品36		1回
交響曲第3番	変ホ長調	作品55	『英雄』	2回
交響曲第4番	変ロ長調	作品60		0回
交響曲第5番	ハ短調	作品67	『運命』	4回
交響曲第6番	ヘ長調	作品68	『田園』	1回
交響曲第7番	イ長調	作品92		4回
交響曲第8番	ヘ長調	作品93		2回
交響曲第9番	二短調	作品125	『合唱付』	5回

ここで興味深いのは、偶数番号の曲について演奏回数が少ないことである。しかも、交響曲第4番に至っては、未だ1回も演奏したことがない。第4番は、ファゴットが大変だから反対する人が多いとか・・・逆に、演奏回数が多いのは、第5番と第9番。いずれも短調の曲である。市川交響楽団は、暗いオーケストラということか・・・？ 交響曲第2番の演奏が2回目とは言え、前回は30年以上も前となれば実質的に初めてに近い感がある。恐らく、30年前のメンバーは殆ど残っていないだろう。

明るい市響となるために、調性は二長調です。初演は、1803年だから初演200周年記念と言うことになります。（そういう企画ではないが）ベートーヴェンは、自分の演奏会の為に作曲し一般聴衆に聴いてもらう事を目的としていました。ハイドンやモーツァルトが貴族に雇われて貴族の為に演奏していたのとは異なります。1つ1つの交響曲で新しい試みがなされ、新しい発見があります。交響曲第1番では、第3楽章が「メヌエット」だったのに対して、交響曲第2番では、第3楽章が「スケルツォ」です。これは、後に第9番で第2楽章が「スケルツォ」になる起点になっています。フォルテ（大きい音）とピアノ（小さい音）が交互に出てくるのも当時としては狂気の沙汰だったことでしょう。（現代では大した事ではありませんが）聴き所は、ゆっくりとした第2楽章です。弦楽器、木管楽器が美しいメロディーを奏でてくれます。見所は、第1楽章と第4楽章です。弦楽器が必死になって弾いている姿を堪能してください。

## イゴール・ストラヴィンスキー バレエ音楽『ペトルーシュカ』(1947)

(Igor Stravinsky) 1882-1971 ロシア

(Petrouchka) 1910-11年作曲, 1946-47年編曲

市川交響楽団が、ストラヴィンスキーの3大バレエを演奏するのは、1980年、昭和55年7月13日にバレエ組曲『火の鳥』(1919)以来2度目です。

バレエ音楽『火の鳥』 1回 (1919年版の組曲)

バレエ音楽『ペトルーシュカ』 0回

バレエ音楽『春の祭典』 0回

いよいよと言うよりやっと市川交響楽団もストラヴィンスキーに手を出すようになったかと言う感じです。とは言え、『春の祭典』をやるとは思えませんが・・・

ここで言う『ペトルーシュカ』とは、人形の名前です。三体の人形がいます。踊り子の人形、人形ペトルーシュカ、ムーア人（北アフリカの黒人）の人形。踊り子の人形に恋した人形ペトルーシュカがムーア人の人形に殺されるお話です。ロシアの謝肉祭を背景に人形でありながら、なまじ人間の心を持ったため残酷な運命へと引き込まれる人形ペトルーシュカの哀愁を描いた作品です。

『ペトルーシュカ』は元々ピアノと管弦楽の協奏的スタイルで着想されましたが、ディアギレフの懇願もあって最終的にはバレエ用の管弦楽曲としてまとめられたという経緯があり、そのため管弦楽曲であるにもかかわらず、ピアノ・パートが非常に重視されているという特徴を持っています。ピアノ・ソロにも注目です。

〔第1場〕謝肉祭の市場

謝肉祭の市場の雑踏を描きます。小屋の幕が上がり、人形遣い（興行主）が笛を吹くとペトルーシュカ、ムーア人、踊り子が舞台から降りて「ロシアの踊り」を踊り出します。

〔第2場〕ペトルーシュカの部屋

見世物師に蹴飛ばされ部屋に放り込まれたペトルーシュカは踊り子に恋をし求愛します。彼の無骨な振る舞いは彼女を単に怖がらせる結果となってしまいます。踊り子はペトルーシュカの気を惹く素振りをしてながら全く相手にしません。ペトルーシュカは興行師の肖像にたたって叫び悲しみに沈みます。

〔第3場〕ムーア人の部屋

ムーア人は踊り子の気を惹くために踊る。そこへ踊り子が現れます。やがてムーア人と踊り子は意気投合し一緒に踊り始めます。そこへ嫉妬に狂ったペトルーシュカが登場。

ふたりの仲を引き裂こうとしムーア人に掴みかかります。しかし、ペトルーシュカはムーア人の逆襲にあい部屋の外に追い出されます。踊り子は大変驚きます。

〔第4場〕謝肉祭の夕暮れ

夕方の謝肉祭の市場の賑わいで始まります。「乳母の踊り」「熊を連れて農夫」などで市場はますます賑わっています。そこへ剣（半月刀）を抜いたムーア人に追われていたペトルーシュカが人形劇場のカーテンの背後から飛び出てきます。踊り子は、ムーア人を押し留めようと試みますが、ペトルーシュカはムーア人に追いつかれ斬り殺されます。人々は驚いていたが、ペトルーシュカが人形だと判ると立ち去ります。（冷たい・・・）やってきた人形使いはその屍体を小屋に引っぱっていく。すると小屋の上にペトルーシュカの幽霊が現れます。

この曲は、ストラヴィンスキー自身の手によってピアノ独奏曲にも編曲されています。尚、本日は、ストラヴィンスキーがアメリカに渡ってから作成された1947年の改訂版で、3管編成により演奏します。フランス時代のオリジナル版（1911）は4管編成です。

**出演者名簿**

【コンサートマスター】立 田 祥 子

【第一ヴァイオリン】

上 田 佳津子  
上 原 剛 介  
大 橋 一 郎  
大 村 雅 子  
亀 井 玲 子  
小 室 乃律恵  
小 室 二美恵  
鈴 木 薫  
二 宮 伸 雄  
根 守 弘 和  
奏 一 宜  
松 岡 寛 親  
横 田 富美子

【第二ヴァイオリン】

石 本 惠 理  
上 原 佐 貴 絵  
鎌 田 真 貴  
河 本 麻 子  
木 原 幸 子  
佐 分 利 幸 江  
城 山 洋 一  
富 田 八 江  
久 田 匡  
溝 田 しげ子  
吉 岡 一 郎

【ビオラ】

内 田 綾 美  
大 橋 かおる  
小 名 康 仁  
島 信 仁  
奈 良 林 弘  
原 口 博 司  
星 原 乘 昭  
若 林 繁 子  
渡 部 玲 子

【チェロ】

岩 田 理 人  
倉 沢 倫 子  
小 松 高 明  
瀬 川 清 一  
中 村 公 一  
根 岸 朋 子  
野 中 能 久  
日 澤 優 二  
福 原 耕 規  
山 口 勝 規

【コントラバス】

石 橋 俊 一  
上 村 代 介  
神 代 啓 子  
菊 池 克 彦  
小 林 真 弓  
西 祐 作

【フルート】

木 村 純 一  
木 村 眞 諭 紀  
佐 藤 洋 行  
篠 原 梨 恵

【オーボエ】

織 田 悦 子  
鈴 木 宏 子  
深 町 和 良  
二 村 直 子  
本 間 広 樹

【クラリネット】

一 瀬 直 美  
奥 村 尚 代  
佐 藤 幸 江  
時 田 雄 人  
半 藤 嗣 人

【バスーン】

伊 吹 直 子  
金 坂 哲 斉  
菅 原

【ホルン】

木 下 泰 斗  
近 藤 利 昭  
潮 見 恵 子  
嶋 村 恒 夫  
林 田 朋 子  
藤 井 茂 司  
山 内 正 晴

【トランペット】

安 藤 宣 明  
酒 井 崇 行  
中 山 秀 嗣

【トロンボーン】

上 田 浩 平  
坂 田 圭 圭  
宮 坂 郁 至  
藪 崎 裕 至

【チューバ】

渡 辺 鉄 雅

【打楽器】

鈴 木 充 裕  
都 筑 裕 裕  
春 田 美 穂 子  
若 月 宣 宏 恵  
和 田 英 恵

【チェレスタ】

和 田 英 恵

【ピアノ】

鈴 木 珠 美

【ハープ】

小 橋 ちひろ

## 指揮者 森 口 真 司



大阪府出身。

京都大学文学部在籍中より指揮を田中良和氏に師事。

1989年東京藝術大学音楽学部指揮科に入学、さらに研鑽を積むため大学院音楽研究科に進学、1995年修士課程修了。

在学中に指揮法を遠藤雅古、フランシス・トラヴィス、若杉弘、岩城宏之の各氏に師事する。

1995年プラハの春国際音楽コンクール指揮部門に於いて第3位受賞（1位なし）。

同時にプラハの春国際音楽祭に出演しプラハ放送交響楽団を指揮、その模様は東京FMで放送された。

以降、コンサート指揮者として、東京フィルハーモニー交響楽団、東京都交響楽団、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、札幌交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢、広島交響楽団等、全国各地のオーケストラに客演する。

東京佼成ウィンドオーケストラとの関係も深く、1997年サントリーホールにおける演奏はCD「吹楽Ⅲ」として発売されている。1998、2001年には全日本吹奏楽コンクールの審査員も勤めた。

また2000、2003年のアジア音楽祭に出演するなど現代音楽にも意欲を見せる。

近年は合唱音楽にも活動の場を広げ、東京混声合唱団にたびたび客演、2002年よりコンダクター・イン・レジデンスに指名された。本年10月にはNHK交響楽団定期演奏会（準・メルクル指揮マーラー「復活」）の合唱指揮者として公演を成功に導いた。

これまでにモーツァルト「フィガロの結婚」「ドン・ジョヴァンニ」「魔笛」「コジ・ファン・トゥッテ」チマローザ「秘密の結婚」ヴェルディ「椿姫」プッチーニ「蝶々夫人」「トスカ」「ラ・ボエーム」「外套」チレア「アドリアーナ・ルクヴルール」「アルルの女」ビゼー「カルメン」レハール「メリー・ウィドウ」を自ら指揮をしたほか、二期会、新国立劇場等の音楽スタッフとして、チョン・ミュンフン、クラウス・ペーター・フロール、アッシャー・フィッシュ、若杉弘、秋山和慶、井上道義、佐藤功太郎ら内外著名指揮者のアシスタントをつとめるなど、オペラ指揮者としての手腕も極めて高く評価されている。

現在、オーケストラ・アンサンブル金沢専属指揮者、東京混声合唱団コンダクター・イン・レジデンス

## ピアニスト 鈴 木 珠 美

国立音楽大学器楽学科ピアノ専攻卒業。ピアノを故クロイツァー豊子、篠井寧子、村松庸子の各氏に、指揮を高階正光氏に師事。

国立音大同調会千葉県支部コンサートにて新人演奏。家永音楽事務所ピアノ・オーディション合格。サントリー小ホール、津田ホールでのジョイントリサイタルにて、スクリャーピン、ラフマニノフ、リストの作品を披露し好評を博す。市川市文化会館新人演奏会出身者として、市川交響楽団とモーツァルト「ピアノ協奏曲第21番」、グリーグ「ピアノ協奏曲」を共演。

故村上正治氏が指導した市川混声合唱団、行徳混声合唱団のピアノ伴奏者を務め、R.フリーダー氏（ウィーンフィル首席チェリスト）をはじめ、器楽、声楽の伴奏者としても活躍している。彼女の常に前向きな音楽性と安定した演奏技量は多くの音楽家の信頼を集めている。

## 房総文化憲章

房総の緑と海と土をいしずえとし 先人のたゆまぬ努力によって  
はぐまれてきた文化を 一層発展させ 誇りのもてるふるさと  
房総を築いていくことは 私たち県民 すべての願いです  
社会の移り変わりのなかで ともしれば失われがちな 人と自然との調和や  
人と人のきずなを見つめ直し うるおいや 喜びをもたらしてくれる  
心豊かな県民文化を創造していくことが 今 求められています  
私たちは 一人ひとりが文化の担い手であることを自覚し さまざまな  
文化との交流を進めつつ 世界に開かれた文化県をめざして  
ここに房総文化憲章を定めます

1. 一人ひとりが 文化を愛する心を はぐくみ  
県民文化の創造に 参加しよう
2. 地域の特色を生かし 水や緑との調和や  
心のきずなを大切に  
村や町づくりを おこなおう
3. 私たちの 財産である伝統文化や  
文化財を守り 受けついでいこう
4. 空と海とを通じ 世界に開かれた房総の  
特性を生かし 国際文化交流を進めよう
5. 文化の 視点に立って 行政を進め  
心豊かな 県民文化の創造を 支援しよう

昭和60年11月3日制定

## 市川市 市民憲章

わたくしたちは 江戸川の流れと松の緑に象徴される郷土市川と その自然を愛し  
由緒ある史跡と伝統をまもり育て 文化都市にふさわしく 教育と文化を重んじ  
人間性豊かな調和のとれた明るいまちをつくるために つぎのことを定めます

1. きれいで 安全な より住みよいまちを つくります
1. 親切で あたたかい 希望にみちたまちを つくります
1. 教育と文化をそだて かおり高いまちを つくります
1. 健康で 楽しく働く たくましいまちを つくります
1. みんなの幸せを願い 豊かな福祉のまちを つくります

昭和52年11月3日制定

## 演奏会のお知らせ

市川市文化会館主催「春のうたごえ2004」  
平成16年 **2月22日（日）** 14：00開演  
場所：市川市文化会館 大ホール

ソプラノ：堀野直美 バリトン：成瀬当正  
指揮：**岡田 司** 合唱指導：田中安茂  
合唱：「春のうたごえ」合唱団（一般公募）

管弦楽：市川交響楽団

曲目：**ブラームス/ドイツ・レクイエム**

お問合せ 市川市文化振興財団 事業係 047-379-5111